

平成30年度第3回神戸市子ども・子育て会議「教育・保育部会」及び  
第2回神戸市市民福祉調査委員会 児童福祉専門分科会「保育所等認可部  
会」

議事要旨

日時：平成31年3月15日（金） 13:00～15:00

場所：三宮研修センター6階605

■質疑応答の要旨

報告（資料②）	子ども・子育て支援事業にかかる基礎調査（関連分〈速報値〉）について
---------	-----------------------------------

- ・ 質疑なし

■質疑応答の要旨

報告（資料③）	平成31年度 こども家庭局子育て支援部主要施策について
---------	-----------------------------

●委員

パーク＆ライド型の保育所について、駐車場料金は、個人負担になるのか。

○事務局

駐車場は、30台程度確保を予定しており、利用料については今後、事業者と調整していくが、駐車場の維持に必要な実費相当の経費等を利用者から求めることは、検討はしている。もともとは無償も含めて考えており、広域からの保育所利用を前提としていたため、できるだけ利用者負担が掛からないような条件で事業者募集をしている。はっきりとした金額は決めていない状況である。

●委員

すごく良い施策だと思う。また、送迎ステーションの件で、神戸市のすまいるネット等では、空き家対策で困っている。鶴甲も住民が減少し、神戸大学が近いため、神戸大の学生とのマッチングも実施したが、学生は不便なため、住む方が少ないという

反応があった。

リノベーションすれば活用できる場所も幾つかあると考えている。この送迎ステーションには、その可能性があると考えており、どこかに人を集めて、配分していくのであれば、その後の連携も想定すると、お互いの事業にいい効果があると思う。

#### ●委員

ある法人の理事会等で小規模保育事業の推進について、弊害となるような材料が幾つかあると意見を聞いた。小規模保育事業の職員については、「神戸市民間児童福祉施設職員給与改善補助」の対象となっておらず、勤続年数加算の部分が、小規模事業所に在籍している間は、加算されないため、職員を異動させにくいとの話があった。

また、小規模保育事業については、公定価格以上の賃料上乘せみたいな制度はないのかというような話や、給食等の搬入をしなければならないため、搬入者に対する助成はないのか等の意見を聞いている。今後の検討の材料になればと考える。

#### ●委員

調査速報について、早朝から夜遅くまでの利用時間を希望する方が大多数になってきている。やはりきめ細かな、それぞれの利用者に対応できるような施策は、利用者の方も使いやすいと思う。

保育園から移行された認定こども園、幼稚園から移行した認定こども園は、長時間預かっている。標準時間、短時間利用の2パターンと延長保育について、認定をもらえば、利用者は最大限利用していい権利があると、勘違いしている方も多し。利用者の預かり時間の妥当性の整理についても検討が必要ではないかと考えている。親子の時間を削って預けている利用者があるのではないかと。利用者の認識について、自分の働き方に合った施設利用をすすめるべきではないかと思う。

幼稚園については、14時頃までの教育・保育とそれ以降の時間の預かり保育という歴史がある。保護者支援の観点からすれば、長時間預かることの必要性や良い面もあると思うが、子どものことを考えると、親子が一緒にいる時間が大切だと思う。

毎年神戸市は、本当に施策に関してはお金もかけて、細かな方策を考えている。全国にも知れ渡っているようで、最近神戸の子育て支援や、神戸の教育・保育のことを知りたいという自治体があった。

また、中国の北京からも神戸の幼稚園とか保育園の視察に来ると聞いている。全国的に、世界的に注目を集めていると思っている。

そういった中、認可外保育施設の認可化の支援補助についてだが、神戸市は今まで認可外に対して年に1回監査・指導をしてきており、きちんとした認可できるような基準がないと認可しないという方針で取り組んできている。駄目な環境のところは善処するよう指導もしていると聞いている。

現在、認可されている施設については、面積や設備等で許せる範囲であれば、一時的な利用定員の増加を検討してもいいのではないかと考える。たくさん子供を集めるには、それだけ施設ではいろんなことをしなければならないうえ、給付単価も下がる。そのため、短期的に2～3年で期限を切って、例えば一人ずつ増やしてもらっても200人となる。認可外への施策を実施するのであれば、現在の認可施設を見直し、単価は下げないような施策を検討してもよいのではないかと思う。

幼稚園の長時間預かりの支援は、10月の国の教育・保育無償化の開始について前倒しをして、神戸市がこの4月から事業を組むという施策であり、大変ありがたいが、所得制限とか要件はあるのか。

#### ○事務局

神戸市が実施する幼稚園の預かり保育支援事業の期間については、9月までである。また、所得制限を設けており、月額1万円を上限とする予定である。一方、国の無償化については、10月から予定されており、所得制限がなくなり、実績に応じて月額最大11,300円まで無償化の対象となる予定である。

#### ●委員

認可外保育施設の認可化の支援の補助について、想定している施設があるのか。

また、保育士の負担軽減のICT化について、保護者も、保育士が大変な仕事だというのは、世の中の的にも非常に分かってきているため、今までだと保育士や先生が楽するなんてとんでもないという意見もあったと思うが、今はもうそういう時代ではなくなっているため、すごくいい施策だと考えている。一気に進めるのにはいい時期と思うため、いろいろな工夫を保護者の意見も聞きながら、やっていく時期と感じた。市が補助をすることによって一気に進めば、神戸市のお話を聞きたいというような自治体も出てきて、取り組む自治体が増えて広がっていくといいと思う。

無償化について、今後の影響について何か考えがあれば聞きたい。

#### ○事務局

認可外保育施設の認可化支援補助について、国も幼児教育・保育の無償化の対象施設にも含めている。認可外保育施設の認可化を進める中で、補助制度も設けており、他の自治体でもこの事業を積極的に取り組んでいる。

神戸市では、園庭を持っている認可外保育施設を対象に、保育士の配置基準など認可施設と同じ基準で配置することができるといった要件を整えた上で、建物の整備改修に補助を実施する認可化支援補助を立ち上げた。実際に認可外施設の中で、認可施設に移れるところはそう多くはないが、すでに受皿になっていることから、保育環境、質の向上を目指しながら、認可施設に移っていただきたいということで進めている。市もフォローしていきたい。

#### ○事務局

無償化の影響で保育者の保育のニーズがどうなるのかだが、今回の無償化の対象については3歳から5歳は全世帯が対象である。

それから0歳から2歳については、市民税非課税世帯で所得制限がある前提で、国の子ども・子育て会議で出た意見では、3歳から5歳についてはほとんどの方が保育所、認定こども園、幼稚園、どこかの施設に入っているため、3歳から5歳が無償になっても、新たな需要の増はないのではないかということと、0歳から2歳について

も市民税非課税世帯と限定をしているため、大きく需要が伸びることはないのかという意見が出ている。

神戸市については、正直なかなか難しいところではあるが、速報版ということで先ほど説明をした調査の中でも、無償化に関する質問項目を設けており、どのように分析していくのかという状況である。

ただ、教育・保育無償化制度の趣旨を市民に対し、神戸市として周知ができてない。制度がまだ成立してないため、新聞報道がかなり先行しているという状況である。引き続き法案等の成立の状況について、見極めを行い、委員の意見をいただきながら、次期計画で反映をしていきたいと考えている。

#### ○事務局

認可外保育施設もいろんな特徴を持っているため認可外保育所施設が全て認可保育所に劣っているということではない。

I C T 導入には二つ目的があり、事務軽減と安全レベルのアップである。安全レベルのアップでは人間の目と機械による二重チェックができればと考えている。保育士の労働環境の改善と両方合わせて、事務的な負担を軽減し、本来の保育に関わる時間を増やしていきたい。本来の保育のレベルアップ、質の向上にもつながると思っている。

#### ●委員

安全に関しての二重チェックについて、保育業界の中で医療の分野が非常に進んで、先進的なところだけではなくて、患者の安全も合わせて考えていくと非常に効率的に進んでいけると思う。

#### ●委員

広報について、「子育てなら神戸」とか、ホームページも「全部比べて神戸で子育て」はいいなと思って見ていた。平成25年度から神戸市の出生率が上がったのか。0歳から6歳の人口は増えたのか。

○事務局

神戸市の平成29年出生数は11,565人。全国的に人口減少の影響等もあるかと思うが、出生数自体は減っている。

○事務局

出生率について、平成22年度が神戸市は1.29で平成27年が1.37で微増しているが、全国平均からは下回っている。平成29年の出生数は昨年度よりも減っており、女性の人口も減っているため、なかなか回復が難しい実態があると考えている。

●委員

放課後デイケアはあちこちに建っていると大学の先生が言っていた。障害児も通えるため、小学校が終わってサポートを受ける実態があるらしい。学童保育の対象児童が増えているので、学童保育よりも、もっと遅い時間まで対応できるデイケアに普通の子供たちもたくさん来ているというところが問題になっていると聞いた。ここでの施策ではないが、子ども・子育て会議のときには、学童とその辺の問題が出るためその際に聞きたいと思う。

また、幼稚園の預かり保育における利用料の無償化について、保育の必要性の認定を受けた場合に限られるのか。

保育の必要性の要件である就労や病気等があるが、神戸に買物に行ったときには、その要件をどうするのか。国基準に合わすとは思いますが、保育の必要性の中身について神戸独自のものも検討してもいいのではないかと思います。

神戸市民がもう少し一時保育で預けやすいような体制を構築してもよいのではないかと。神戸市は半日料金にも対応しているが、もっと短い時間でも預かるような対応も必要であると考えます。

●委員

保育人材確保と保育士負担軽減については、いわゆる保育人材の確保や定着に向けてかなりの努力を神戸市はしている。全国的な視点に立っても神戸市の施策はトップ

を走っている。

兵庫県の中で、神戸市で就職をするということは、他市とは比較にならないくらいに、経済的には上回っている。

また、施設の供給量に関しては、無償化の影響で潜在的なニーズが恐らく顕在化し、施設利用者が一時的に増える可能性があると考えている。

待機児童を解消することは非常に困難な状況かもしれないが、それぞれがそれぞれの立場で一生懸命考えてやっていければと思う。

#### ●委員

事業者は神戸市とタッグを組んで、待機児童対策に取り組んでいかないといけない。ただ、幼稚園の方では、神戸市は働く保護者にだけ支援が手厚いという声もよく聞く。

無償化になって、長時間預かる人が無償で、預かる時間が短い幼稚園の無償もうれしいけど、保育園とは差があると言われる。園側としては幼稚園には、預かり保育があると答えると、保育園のように全部無償にはならないため、働かないと完全には無償にならないと保護者には言われる。

また、働かなければいけないのに、まだ施設が決まってない人もいる。二次募集が終わっても行きたい施設には行けないし、紹介されている施設が第4希望、第5希望で遠くていけないという保護者もいる。

待機児童ゼロに近づきたいという思いで、事業者は取り組まなくてはいけないと思っている。

#### ○部会長

若い保育士は、就職活動で特に初任給で判断する傾向があるため、そういうところには処遇改善は反映されていないのか。

#### ○事務局

初任給は各園で決めている。初任給以外の部分では、例えば、宿舍借上げ支援では、家賃負担が年額で100万円ぐらいの負担軽減になるとか、あるいは一時金についても

1年で最高30万円を支給していることを、できるだけ伝わるような広報を心がけている。

○部会長

初任給額の表記については、何かルールとか考え方とかあるのか。すごく高い施設と低い施設がある。

●委員

学生に対しては、年収で判断するような指導をしてほしいと思っている。法人でも工夫をしており、賞与を下げて基本給を高いという見せ方もある。賞与改善等で神戸市内の施設の年収は結構な金額になっている。

●委員

他産業よりも低かったが、だんだん追い付いてきている状況である。

■質疑応答の要旨

議事（資料④）	幼保連携型認定こども園、保育所、家庭的保育事業等の認可及び利用定員の設定について
---------	--

・質疑なし